

「共に育ちあう喜びの心と失敗から学ぶ謙虚な心を持って!」

すべての人が心と体が健康で、謙虚で、素直で、正直で、
柔軟性と勇気を持ち、自己決断ができる人に育っていくように
努力します!・・・心をこめて・・・

園長 高杉美稚子



私達職員も、期待と喜びで胸が一杯の春4月がやってまいりました。
今年は吉塚創立61年目、玄海、地島6年目、また新しい扉の幕開けの年です。

保護者の皆様も、園児たちも、大丈夫かなあーと心配や不安も沢山ある事でしょう。その不安が少しでも少なくなるように、そして、喜びがもっともっと増していくように、保護者と子どもと教師と三位一体の協力体制のもと、一生懸命、充実した保育を実践し、この新しい出発にあたり、常に、幼児の立場に立って、保育とは何か、幼児にとって幼稚園とは、園生活とは何か、という基本に立ち返り、幼児一人一人と共に充実した幼児期を私達大人も共に過ごしていきましょう。私達、教職員も精一杯頑張ります。どうか、今年度も保護者の皆様のご協力とご理解をお願い致します。

さて、ゆりの樹幼稚園の教育のキーワードは三つです。『安全』『安心』『感動』の三つです。
一つ目は『安全』これは入園説明会や入園案内でご存じのとおり、ゆりの樹幼稚園独自の他では見られない『物的環境』です。安全で、心が温かくなってなんだかとても居心地がよく、また来たくなるような不思議な自由空間がたくさんある、子どもにとっても、保護者の方、職員にとっても心地よい思い出の原風景につながる「心の陽だまり」としての居場所づくりを目指しています

今年は新たに、吉塚では「スペースワールド」や玄関、子育てラウンジ、1階のクラス横のデッキの全ての床がリニューアルし、各所に絨毯も増やしました。(P41・P42を見て下さいね)

玄海では新しい2歳児毎日コースの「みらい組」とエンゼルクラブの発足に伴い、昨年、改築をしていた2部屋と「けやきホール」に多くの新しいドイツ製家具がそろいました。「けやきホール」には大型遊具や、魔法の鏡、4月末になりますが大うしろ壁には、ロッククライミング、横壁には、いくつもの不思議な流線型の遊具がそろいます。みらい組にはカラフルなドイツ製の机、いす、お道具箱、お着替え棚、ツリー型の絵本コーナー等、園児達が興味を持ち更に創造性や好奇心を高めることが出来る環境になりました。

ゆりの樹幼稚園の教育のキーワード、二つ目は『安心』です。それは子ども達にも、保護者の方にも、安心して預けていただける、そしてなんだか一緒にいて居心地のいい、またもう一度会いたくなる魅力あふれる『人的環境』です。今までのように、各組二人の職員体制だけでなく、園長を中心に心を結束し、副園長、教務主任、フリーの先生の配置など、更に充実させていきます。玄海は教務主任が2人、吉塚が4人へと増員し、さらに充実した組織となり、安心してお預けして頂き、子ども達の安全が守られることで、保護者の方にも安心して頂ける環境になります。そのことで園児達の「心の安定」と皆の先生に見守られるという「安心感」も更に図ることが出来ます。

ゆりの樹幼稚園の教育のキーワード、三つ目は『感動』です。子ども達が行動変化し、成長する姿（10Eのエクステンジ）をみて、保護者の方が感動し、我が子に感動の言葉をかけることが子ども達の成長に一番繋がります。そして、その姿を見て私達職員も、感動し、教職員としての人生を充実させることが出来ます。今、幼稚園という職業を選択する若い人が減っています。どうか、人生の先輩として我が子同様、若い職員も感動の日々が過ごせるように育ててください。感動のないところに成長も教育も、人生の喜びもないと私は考えます。

人間の祖先がネアンデルタール人とホモサピエンスに分かれるときの要因は「言葉を持ったかどうか」だったといわれています。人間関係も長い付き合いになると、もう言葉もいらないという領域に達するのでしょうか、それはなかなか難しい聖域ですね。

人間関係を保つ為には、まずは人へと進化するために必要だった、この言葉の使い方が大切です。まずは、大人も子どもも『ありがとう。ごめんなさい、わからないから、教えて、助けて』を言うことが出来る。そして、親や教師、子どもを取り巻く大人の私達が子ども達の成長の姿を見て感動できる感性をいつまでも持ち続け、そのわずかな成長にも目を向け、小さな言葉に耳を傾け、心で感じ、感動したことを適切な言葉で伝えることが子どもの成長の為には大切です。

小さな子ども達はまだ、言語を正確には会得していない時期でも感情は豊かに持っています。子どもが「悲しい、悔しい、情けない、苦しい、寂しい、辛い、怖い、嬉しい、楽しい」という感情を持っている時に、大人が「悲しいんだね、悔しかったね、情けないね、苦しいね、寂しいね、嬉しいよ、楽しいね。」とその感情をそのまま受け止め、言葉を適切にかけてあげることによって、子ども達は、今、自分が感じていること、これが「悲しい、悔しい、情けない、苦しい、寂しい、辛い、怖い、嬉しい、楽しい」ということなんだと、言語と感情を結び付けていきます。

感じたその時に適切に、大人に言葉かけをしてもらって感情と言語が適切に結びついていった子どもは、「悲しそうな、悔しそうな、情けなさそうな、苦しそうな、寂しそうな、辛そうな、怖そうな、嬉しそうな、楽しそうな顔」をしている人を見ただけで「悲しいんだね、悔しかったね、情けないね、苦しいね、寂しいね、辛いね、怖かったね、嬉しいよ、楽しいね。」と受け止め、その気持ちを理解し、相手に「愛と思いやり」をかけ、悲しみ、悔しさ、情けなさ、苦しみ、寂しさ、辛さ、怖さを半減し、人の嬉しさ、喜びを、共に感じ（共感）、一緒に2倍にも3倍にもしていく力が生まれるのです。

そうやって、感情と言語が密接に関連しながら発達して、人の間で、人と心を分かち合いながら、人を支え、人にささえられて、人に振りまわされない、真の自立した社会的動物「人間」に育っていくのです。だからまずは「感情」を受け止めてあげることが大切なのです。

大人が、水々しい感性を持ち続け、子どものわずかな成長の変化に気づき、感動し、それを言葉や行動で表現し、伝えることこそが子ども達にとっての最も、成長につながる、「心の栄養」になるのです。

教育は目に見えることを教育てることも大切ですが、もっとも大切で難しいのが、この目には見えない心の部分、見えない、「愛と思いやり、共感し、個性を持って真の自立するとは何か」を育てることです。

アントワヌ・ド・サン＝テグジュペリの「星の王子様」の中にこのような文があります。
「本当に大切なものは目では見えないんだよ。
心の目でみなくちゃ」目に見える教育をすることも難しいけれど、本当に大切な教育は目には見えない部分、心の教育です。
その為には、どうしたらよいのでしょうか。



その為に必要なことがゆりの樹幼稚園が考える体感を通した「感動の教育」なのです。幼い子どもの教育の為に、また職員の資質の向上のためには、職員同士の連携、子どもとの連携、家庭との連携、そこには「**信頼し、互いに尊敬の心をもち、一人一人の輝きを大切に、人としての尊厳を尊重する**」ことが最も大切です。人はどんな立場にあれ、人間としての輝きはみな同じです。これは大人が子ども達に対しても同じです。

そのような、心を持って、親も子どもにも、「**先生大好き。ゆりの樹幼稚園 最高！**」というこの信頼関係を持って頂くことで教育の効果が一層上がるのです。幼児期は、依存から自立に向かって成長していく過程です。親から次第に離れて、友達の励ましや支えを受けたり、認められる事によって自分の力を貯えてきます。

「**感動のある体感教育**」を通して、幼児自らの経験として組みこんでいく楽しさと必要性を知っていく時期でもあります。大勢の仲間がいて、仲間と一緒に生活を共有し、互いに影響しあって、「**共に育ち合う喜び**」を知っていく時期だといえます。これは大人も一緒です。集団生活において、子どもだけでなくまずは親同士、親と職員がこの「共に育ち合う」事が一番大切な事です。皆がいるからこそ成長できたと思える、信頼関係が大切です。1人の力が10人、あるいは100人になることがゆりの樹幼稚園の教育の願いです。

それぞれが力を出し合い、相手の欠点を補い、助け合って支えあって、多くのエネルギーを生み出すまずは職員集団、保護者集団、クラスの仲間達であってほしいと切に願います。子ども達の為に、教師も親も決してお互いの配慮のなさで、10人の力をそれ以下に減らしてはならないのです。マイナスの要因をもたらす1人には決してならないように保護者の方と教師が手を取り合って努力しましょう。



皆がこのゆりの樹幼稚園で出会い、ひとりひとりの力が結束して、パワーを生み出す集団になりましょう。この人、この子がいてくれたから、今の私があると感謝できる心を持ち、この人、この子がいてくれたから、助けられ、成長できたといってもらえる大人(親・教師)になりましょう。木で出来た「おけ」は一番短くなったところから水は溢れ出します。どんなに素敵な人が多くいても、一人の配慮のなさが全体の成長を止めます。だから皆で、勇気と知恵を出し合って、謙虚さと柔軟性と正直な心、愛と思いやり、勇気をもって、親も先生も子どもと「**共に育ちあい**」ましょう。

『**ありがとう**』の言葉を忘れずに・・・

子ども達の教育においては、私達、大人は、この「育ちあい」を如何に素晴らしいものに発展させてあげるかの「**添え木**」です。この「添え木」の役目は重大で、この添え方次第で子どもの育ちあいの方向が決るといっても過言ではありません。

だからゆりの樹集団で自分自身が、一人一人が成長し、周りの人を支える人になりましょう。子どもの教育と同じように「手をださず、口をださず、目をはなさず」の言葉通り、子どもの育ちあいにまけないよう、お互いに感謝の心を持って、教師も共に育ちあう素晴らしい飛躍の1年でありたいと思います。



こんな話があります。満員電車に乗り慣れない人が、異常に疲れを感じるわけは、周囲のゆれに合わせられずに、固くなっている事が多いからだそうですね。人間の体内のリズムもこれと同じで、変化する周囲の状況に対応できる「**しなやかさ**」が健康のポイントだといわれています。

普通に生活している状態では、体内リズム(ホルモンの分泌など)と環境のリズム(日の出、日没等)は一致しているのので、これに生活のリズムを合わせれば、体は、無理をせずに健康を保つ事ができていきます。

ところが、この体内のリズム、環境のリズム、生活リズムのハーモニーがくずれると、体はその板ばさみになって、健康を維持できなくなってしまいます。柳のようにしなやかな体内リズムも無理やりねじまげれば、複雑なアンバランスを起こしかねないというわけです。

だから、今年は、強さよりも、「しなやかさ、柔軟性、臨機応変さ、本当の優しさ、愛と思いやり」を重点に力を合わせていきましょう。そうすれば、折れることなく無理なく、むらなく、無駄なく、しかも自然体で臨んでいくことが出来ると思います。人間も自然の一部です。そうすれば「謙虚」になれます。そして、良い意味での育ちあう共同体をめざしましょう。

人間関係の根底にあるものは、相手をそのままでよいと認め、存在を否定せずに、一緒にいる事が出来る、相手が始めようとした事を尊重し、相手とのやり取りを楽しむ力です。人の中で生きていくことの楽しさをする事です。大人の世界でも人とのかかわりが希薄になっている時代です。傷つくことを恐れて、あまり人とかかわらずに済ませてしまおうという傾向すらあります。かわらなければ当然衝突もありますが生きていく楽しみは取り巻く人々とのさまざまな営みです。



子ども自身が大人から何かできるから認められるのではなく、自分の存在をそのまま喜ばれる体験や自分が始めた事を大事にされる体験、人間関係の中で自分の気持ちを大事にされた体験をいっぱいしなければ人の気持ちを大事にする大人になっていくことが難しい事を考えれば、私たち自身がそのような体験を大人集団の中ですることが大切です。

親は子育ての中で、教師は保育の中で、いずれ自分の課題に直面することは避けられません。自分の問題としてとらえた時間問題は既に解決に向かっています。誰かのせいにしていて問題は閉じ込められてしまいます。親や教師は子どもの問題によって、子どもによって教育されます。このときの自分自身や、周りの人との対話で自分の自信を成長させるほかありません。だから「子育ては自分育て」なのです。

そして、自分の気づきに、自分の奥底にある感情に気づいて「素直に表現すること」です。素直になれば、柔らかくなれます。正直であれば、力が入りすぎることはないからです。『わからないから、教えて、助けて』が言え、『だって、でも、どうせを言わないで、今、何ができるかを考えようとする事が出来る』ようになります。なかなか難しい場もあるかもしれませんが、同じ子ども達を育てる親、教師としての喜び、楽しみ、悲しみ、苦しみなどの奥底にある感情は共通するものがあります。

たとえ、行動パターンや、考え、立場は違っていてもその感情は理解しあえます。だから自分の行動にある感情に気づいて表現することが、必要なのです・・・。その事を表現することによって、お互いの悩みや、驚き、疑問、喜び、楽しみ、苦しみ、悲しみを共有することが出来、お互いの理解が増し、最終的に互いに変わっていくことが出来ます。

立場が違えば、行動や、考えが違って当然です。そして、その違いを認めた上でのお互いの深い理解が大切です。その事を越えた向こうでの理解が大切です。そうすることで、行動や考えの違いを認めることが出来るようになります。人間が、皆、全く、考えや行動が同じであることのほうが恐ろしいですね。感情の理解が出来れば、行動や考え、方法は違っていいのです。それが個性です。それこそが人間社会の教育だと私は考えます。

ー最近、心に残ったことにこんな言葉があります。

「なぜ、桜の花が咲いているのでしょうか？」
答えはとてもシンプルです。答えは「桜の木を植えたから。桜の木だから。」です。なんて当たり前じゃないですか!!と怒られそうですが、桜の木は、桜の花が咲く。イチヨウの木にはイチヨウの花が咲く。
では、あなたは「何の樹（気）」を咲かせますか？
（この樹（気）は気持ちの「き」です。）
「幸せの樹」？「楽しい樹」？「感謝の樹」？それとも「イライラの樹」？「ムカムカの樹」？「心配の樹」？
普段からの気持ちのエネルギーが花や実となって、現実に出てきます。
折角だから、桜の花のように、人に喜ばれ、楽しんでもらえるような樹になりましょう。ー



さあ、平成25年度の始まりです。この「ゆりの樹」で皆さんはどんな花を咲かせるのでしょうか？
その為に必要なことは・・・この幼稚園で、子どもたちが小さな幸せを見つけていく方法
・・・それがゆりの樹幼稚園の教育方針であり、教育理念、そして目指す人間像です。

どんな花を咲かせるかはそれぞれですが、どんな花であれ、その花を咲かせていく為に必要なこと、その為に、**「ゆりの樹幼稚園の教育方針」**をもう一度、心に刻んで頂くことが大切です。
新年度にあたり、毎年のことですが、今一度教育方針の確認をして頂きたいと思います。そして、しっかり理解して頂き、子ども達の成長の為に手を取り合って、心をつなげて歩いていきましょう。
まずは小さな一歩から・・・失敗とやり直しを恐れずに。

★ゆりの樹幼稚園で目指す教育の三つの柱★

- 1に「**真の自立への道**」（個別性と共感）
- 2に「**知ることの喜びを与えること**」（自己成長の継続と問題解決能力）
- 3に「**感動と思い出を作ること**」（生命の尊重と危機管理能力）



★三つの教育の根幹★

- 1、**共育**—自立への援助として、子どもと同じ目の高さになって、同じ純粋な心をもって、子どもを取り巻く教師が、保護者がともに育つ「共育」
- 2、**響育**—感動と思い出を持って心と心が響きあう、子ども同士、大人同士、子どもと大人が、それぞれが問い掛けたことがかえってくるそんな「響育」
- 3、**驚育**—知ることの喜びは、驚きと発見の連続を育てる「驚育」

でありたいと考えます。

この三つの柱、三つの教育の実現のためには、「セルフコントロールできる子どもに育てること—自己決定能力のある子どもにすること」が大切であると私は考えます。そこで、決断の教育の循環が大切になってくるのです。

★ゆりの樹幼稚園が考える教育の循環

「**自己選択→決断→承認→自信→自他分離→個別性→共感→自立**」の教育の循環を通して、真に自立し、自分の事が大好きな子ども達を育てていく「**自分が大好きで、自分が信じられる**」教育です。

この教育は、子ども達が自ら選択、決定し、自己承認が出来る日々の保育を通してその年齢に不可欠な子ども達の望ましい成長と発達を促す教育でもあります。子どもが自分で決めるということはとても大切なことで、いつ自分で決めるのかも含めて子どもに任せて待っていてあげるところに子どもの自主性が育ちます。自分で自分を律する（セルフコントロールできる）ことが出来れば、人は切れません。自分で決めるためには、「**小さくても自分にとって大切なことを、自分の感情に気付いて、自分で決めるという体験が必要**」です。いつするかも含めて、自分で決めていいとなると、自分の衝動や欲求を抑制したり、先延ばしにしたり自分で出来るようになっていきます。この「セルフコントロールできる子どもに育てること—自己決定能力のある子どもにすること」の課題は、友達とのかかわりの中で育つことがもっとも大切です。それが三つの友達とのかかわりです。

★ゆりの樹幼稚園が考える三つの友達とのかかわり

- 1、「**私は私**」という自分の存在の確立
- 2、「**私とあなた**」という二者の関係、共に生きるということ
- 3、皆の中の自分という存在



『**心の教育とは**』ルールを教えるのではなく、なぜそうしないといけないかという気持ちを教える事「**片付けることが大切**」という事を教える事が教育ではなく、片付けると気持ちが良いという気持ちを教えるのが心の教育です。この気持ちが理解できない限りしつけも子どもの心と体の中に定着することはありません。そうしたほうが心地よいことを子ども自身に感じてもらうことが心の教育です。このことを教えないとルールだけを守る人間になるのです。

そして、もっとも大切にしたいのは信念を持ってゆりの樹が考える「10E」を生きること。

エコ・エンバイロメント

常に自分の心と体の健康に気をつけること。そのためには自分の周りの物的、人的環境を整えること。愛のある言葉、夢、希望が持て、勇気が出る言葉をしっかりとべる「心の朝ごはん」、そしていつも自分のことを理解してくれ、共感してくれる人を見つけておくこと、「心のウンチ」ができる場所があることが大切です。しっかり心の朝ごはんを食べたら、うんちを出すことも大切、もし、心のうんち（不満、不安な、怒りなどの感情）を出すことができなかつたら、抑圧となつて、それは変な形となつて爆発するのです。だから、時、場所、相手、タイミング、言い方を考えて、上手に出すことが大事です。



エデュケーション・エモーション

エデュケーションは先に述べた、ゆりの樹の三つの教育、三つのかわり、三つの柱です。そして、その実現の為に、「ゆりの樹の10E」があります。心の朝ごはんと心のウンチを上手にすることが「ゆりの樹の10E」につながります。なぜなら、先に述べたように、その行動がどのような、自分の心の奥底にある動機、感情に突き動かされてしているかが大切だからです。だから、感情・エモーションに気づくことが一番大切です。自分の感情に気づかない限り、自分がどのような感情、動機に突き動かされて行動しているのか気づかない限り、自分の行動は納得できなくなるのです。感情に気づかない限り、自分が、居心地がいいか、悪いかも自分で分からないので、自己選択、自己決定もできないのです。感情に気づけば、自己選択、自己決定ができ、自分を承認し、自信がつき、自分に自信があるから、自他分離し、他人も自分も「これでよし」と、共感し、そこに真の自立があることは、「ゆりの樹の教育方針」ですので、もう既に充分ご存じのことでしょう。これが自他肯定です。自他肯定できるからこそ、素直な言葉が出てきます。自分の心の声、感情に素直であれば、他人の目を気にしてフリをしなくて済みます。

エンパワーメント・エンターテイメント・エンジョイ・エクセレント

人間力・エンパワーメント（色々な人や本がどんなに良いことを教えてくれ、私達が進む道を示唆してくれても、自分がその道を進みたい《進むべきではなく進みたいという気持ち》が大切。人生はshouldすべきからWill～したいへの転換が大切。他人がどう思うかを気にした「すべき」から「自分がどうしたい」のかという切り替えが大切。》それが人間力）が増してきて、他者を理解することにもつながるし、どんな自分も受け入れる事が出来るようになるのです。結果として、心がリラックスし、どんなことも楽しんで・エンジョイして取り組める大人に育っていくことが出来るようになるのです。

そして次に、自分が楽しければ、人間はそれを伝えたい・エンターテイメントです。楽しんで、伝えて、伝わったら、嬉しくて、また伝えて、楽しんで、それが仲間づくりに発展するのです。自分の感情、どうしたいかに気づいて、見返りを求めずにいれば、最後まであきらめないで、伝えるまで、伝え続けることも出来るようになるのです。それが人生をエクセレントにするのです。

エクステンション

自分の根本は変えられない部分もあります。どんなに努力をしても、結局、元のままだった、変れないと感じることもあるのです。そう感じるのも間違っていないのです。違う自分になることは苦しいのですね。

だからこそ、少しだけ行動を変えればいいのです。少しだけ行動を変えることが、人からは違って見える、人から成長したと見えるのです。だから、小さな行動ステップでいいのです。自分を客観的にみて、少しだけ行動を変えてみましょう。勇気をもって。そして、行動を変えることで、自分の中の奥底に、いつの間にか変化が起きているのです。それが成長エクステンションです。





ゆりの樹幼稚園がのぞむ人間像

- 1、心と体が健やかな人—明るく、元気
人の良いところに焦点をあてることができる
- 2、謙虚な人—清く、優しい
人の成長を自分の喜びとし、手柄を自慢しない、相手をたて、「ごめんなさい」が言える
- 3、正直な人—自己肯定、素直
「わからないことはわからない、教えて、助けて」と言え、聞くことができる
- 4、感謝できる人—他者肯定、愛らしい
起こることすべてを受け止めて、必要だった、だからよかったと感じ、「ありがとう」が言える
- 5、柔軟性がある人—かしこく、温かい
外(クレーム・アクシデント) 内(自分の問題・ストレス)のどんな変事にも対応しようとする
- 6、勇気がある人—どっしりとして力強い
自分を信じて新しいことにチャレンジ、最後まであきらめないで一步を踏み出すことができる
- 7、自己責任がとれる人—凛として、おだやか
言い訳をせず、人のせいにしない
「だって・でも・どうせ」を言わないで、
今、何ができるかを考えようとする



この目指す人間像の理解なくして、適時、適量の言葉かけは出来ません。このような親、教師、子どもの関係が築けたときその集団はきっと成長していくのでしょう。この実現のためにゆりの樹幼稚園の「教育理念や教育目標、10E」があります。この実現の為に、どうぞ、手を取り合っていきましょう。

かわいい子ども達の為に。次世代のために。それは、とりもなおさず、大人も「人間としての自己成長」につながります。前を向いて歩くことが大切です。失敗したら、そこで学ばばいいのです。次にどうしたらよいか、考えればいいのです。怖いのは、失敗を恐れて一步を踏み出せないことです。迷いながらも、勇気をもって挑戦する事は、人を成長させます。『情けは人の為ならず』結果として、自分にすべてかえってきます。目の前の事柄や手段や結果のみにふりまわされず、問題の奥底にあるものに目を向けていきましょう。

今年一年も、子ども達、保護者の方、職員と共に歩き、驚き、響きあいながら、共に成長したいと思います。

「人は夢を育て、夢は人を育てる 親、教師は子どもを育て、親、教師は子どもに育てられる」

毎日の職員朝礼、終礼のサンキューメッセージを伝える挨拶の後、皆で声に出す最後の言葉です。

「いいね！素敵だね！大好き！」
目じりを下げて、口角を上げて、両手をお空に広げて
「わっはっはっはあ！！！」

最後まで読んで頂きありがとうございました。今年度もどうぞ宜しくお願い致します。

